キェルケゴールの単独者概念と社会性の問題

米澤　一孝

はじめに

今回ご提示する論点は、以下の通りです。

1．キェルケゴール個人の社会性

2．ドラッカーによるキェルケゴール論

3．IT革命を経て変質した「社会性」と「単独者」

皆様に、以上の議論をお示しし、キェルケゴールの単独者の社会性について考える機縁となる報告にいたしたいと考えております。

1．キェルケゴールに社会性はあるか？

キェルケゴール思想の諸概念を彼自身の人格や生涯と切り離して考察することはほとんど不可能であるため、彼の人物像解釈を検討することは、「単独者」概念に限らず、キェルケゴールの思想全体の社会性を問うにあたって意義はあるでしょう。そこで、キェルケゴール研究家ではない山田昌弘と岡田尊志によって、どのようにキェルケゴールの人物像が評価されているのか紹介したいと思います。

山田はキェルケゴールを「史上再凶のメイドオタク。空前絶後のキモさで世間のみんなの笑いもの」*1とし「立派にロリコン認定されてしまうなかなかのダメ人間を誇る剛の者」*2としています。さらに山田はレギーネ・オルセンとの婚約破棄を、キェルケゴールのような「過敏な感受性の持ち主が、一人で勝

*1 山田昌弘・麓直浩共著（2010）『ダメ人間の世界史 ダメ人間の歴史VOL1 引きこもり・ニート・オタク・マニア・ロリコン・シスコン・ストーカー・フェチ・ヘタレ・電波』社会評論社、165ページ。

*2 同書、165ページ。

手に盛り上がって思い詰め、婚約破棄とか言って大騒ぎした」*3と解釈しています。

さらにつづけて「誘惑者の日記」における記述を「普通の性癖の人間が考えつくはずもな」*4く、「無意識のうちにうっかりとこぼれ出た偽りのない本心からの発言、思わずさらけ出してしまった彼の性癖」*5の現れと断じ、キェルケゴールを「キモい」「現代で言うオタクみたいなポジション」*6と評します。また、コルサール事件で、キェルケゴールが孤立した理由を「彼の姿勢や服装が世間的に見てキモいせいで」*7「脳天気にマスコミに同調する一般大衆にまで散々に嘲笑され」*8たためとし、ついに、キェルケゴールを「ダメ人間」と断じます。

一方、岡田は「親密な関係を求めない人々　シゾイドパーソナリティ障害 Schizoid personality disorder: SPD」*9の代表的人物として、キェルケゴールを取り上げます。この障害の特徴は「対人接触を求めない」*10ことであり、彼らにとって「孤独こそ最良の棲み家」*11なのです。この障害者は、異性を必要とせず「自分の世界を守ること」を優先します。また、質素であるばかりか世捨て人にさえなる場合も多い反面「感性や趣味は意外に洗練されてい」*12ることも多いとされます。ただ、感情が乏しいのではなく「極めて繊細で、わずかの感情の動きにも敏感であるがゆえに、強すぎる感情は、ただ不快に感じるだけなの」*13で、「己の世界の侵害を恐れ」*14るため、彼らにとって「自分の孤独な居

---

*3 同書、166 ページ。
*4 同書、169 ページ。
*5 同書、169 ページ。
*6 同書、170 ページ。
*7 同書、170 ページ。
*8 同書、170 ページ。
*9 岡田尊志（2004）『パーソナリティ障害　いかに接し、どう克服するか』PHP 研究所。209 ページ。近年は、スキゾイドパーソナリティ障害、と呼ばれることが多い。
*10 同書、210 ページ。
*11 同書、210 ページ。
*12 同書、210 ページ。
*13 同書、212 ページ。
*14 同書、214 ページ。

場所というのは、非常に大切なもので、誰も立ち入ってほしくない聖域」*15なのです。従って、関係が深まらないのが普通で、むしろ関係が親密になるにつれ「自分の世界を侵犯されるような気持ちにな」*16り、恋愛の進行とは逆に、気持ちが冷めてしまうこともあります。

こうした前提で岡田は、レギーネとの婚約破棄以降のキェルケゴールの態度を「ただし、彼（＝キェルケゴール）が愛したのは、一人の女としてのレギーネではなく、永遠の存在としてのレギーネだった。（中略）レギーネという生身の女が、現実的な存在として、彼の生活に侵入してくることに」*17キェルケゴール「の精神は耐えられなかったと受け取れる」*18とします。

岡田は続けて「レギーネにしてみればいい迷惑であっただろう。」*19 し、キェルケゴール「が現実のレギーネではなく、彼女の上に勝手に理想化したものを、独り善がりに愛していただけだということに、やがて気づいただろう」*20 と言うことで、キェルケゴールをシゾイドパーソナリティ障害における自己愛性に関する格好のサンプルとします。結局、岡田と山田との両者によるキェルケゴールの評価に本質的な差はないとしても過言ないでしょう。このような、あまりも悲惨な評価を前にすると、キェルケゴールに社会性を問う問題設定に難があるように感じられます。

2．ドラッカーのキェルケゴール論

ここで、P.F.ドラッカーPeter Ferdinand Drucker 1909-2005が、第二次大戦前後に出版した*The Unfashionable Kierkegaard* *21 *22 を紹介しましょう。

---

*15 同書、210ページ。
*16 同書、210ページ。
*17 同書、216ページ。
*18 同書、216ページ。
*19 同書、216ページ。
*20 同書、216ページ。
*21 Peter Ferdinand Drucker（2011）The Ecological Vision, Reflections on the American Condition,Transaction Publishers, New Brunswick, Newjersey, P.427. に First Published in Seanee Review, 1949 とある。
*22 上田淳生により「もう一人のキルケゴール」（『すでに起こった未来　変化を読む眼』ダイヤモンド社、1994年。）というタイトルで訳出されている。ドラッカーによると、

「経営の神様」と評されるドラッカーは『おそれとおののき』を愛読書に挙げるのみならず、自身、この論文を晩年に発行した論文集*[23]に加えることで、半世紀を経ても彼の哲学基盤がキェルケゴールにあることを表明したといってよいでしょう。

ドラッカーは、「もっぱら宗教的経験に関わる」キェルケゴールこそ「苦悩する現代社会にとって意味があ」ると断言します*[24]。19世紀の「進歩の時代」では、「人間の実存はない。あるのは社会の存在だけ」が故に人間の実存を問わず社会の可能性だけを問うたため「個人の実存や自由の存在」が否定されてしまった。19世紀では、自由を自明のものとし、「あまりに社会的平等を目指していたために、むしろ逆に、《社会はいかにして可能か》という問いのなかに、自由という福音への鍵を見ていた。不平等という古い足かせを壊すことが、すなわち自由の確立と等しい」としたために、社会における個々人の自由が奪われるという20世紀に明らかになった現実を見逃していたのだ、というのです*[25]。

ドラッカーは「社会」の時代において、キェルケゴールだけが、人間の実存は「精神のおける個人」すなわち「永遠」と、「社会における市民」すなわち「時間」とを、「同時に生きるという緊張状態においてのみ可能」*[26]で、永遠と時間と「が異なる次元にあり、それぞれ相容れず混合できないと知っていた」*[27]とします。

このエッセイは「社会そのものにとっても、社会だけでは十分ではないことを主張する」ことと大戦後の社会における「希望を確認する」ために書かれた（Drucker（2011），P.426.）、という。

*[23] 島田恒（2010）「ドラッカー経営学の基盤―キルケゴールからの衝撃と思索―」『経営哲学』第7巻1号　では、前掲 Drucker（2011）ともう一冊の論文集が挙げられている。

*[24] Drucker（2011）, P.427.

*[25] ibid., P.428.

*[26] ibid., P.429.

*[27] ibid., P.428. ドラッカーは、「時間そのもの」を永遠すなわち神「がお造りになった」（アウグスティヌス（2014）山田晶訳『告白Ⅲ』中公文庫、37ページ。）という聖アウグスティヌスによる時間論と、聖アウグスティヌスとは真逆かつ19世紀の信条となった「永遠が時間に到達しうる」という時間論との双方から得た、キェルケゴールの独創的思考と見ている。

さらに人間の実存は、永遠と時間あるいは精神と社会という二つの和解できない倫理的に絶対的なものに押しつぶされたものとしてのみ、「恐れとおののき」なかでの実存、すなわち「絶望」の実存としてのみ可能なのですが、こうした「非常に悲観的gloomyで厭世主義的pessimisticな」見方は、ヘーゲルやマルクスに代表される「永遠は時間において到達しうる」という楽観主義的な「19世紀において病的で常軌を逸したものに見えた」のです。したがって、こうした「破滅や悲劇が存在し得ない」時代に「人間の状況を本質的に悲劇と見た」キェルケゴールの思想が入り込む余地はありません。そして、悲劇を無視する悲劇的状況は現代もなお続いているのです*[28]。

しかし、「社会」の時代も「死」を排除することはできませんでした。人間は死ぬとき、社会の外側に置かれ孤独になります。しかし、彼の実存が「社会」にのみあると「実存」そのものに意味が無く「孤独」もないため、彼は意味のないものになります。この状態をキェルケゴールは「絶望して個人であろうとしない」と表現しました。「時間を通じて永遠に到達されるという教義」や「個人は社会において自己を実現できるという教義」は、一つの結果－絶望－しかもたらさない、というわけです*[29]。

ドラッカーは続けて、キェルケゴール「が100年前に予見したように、人間の実存を社会における実存と宣言する楽観主義は、絶望へと突き進む。そしてその絶望は、全体主義に突き進むのみである。なぜなら、全体主義は人生の無意味さと個人の不在の確認に基づくものであるからだ」「全体主義の信条において強調されることは、いかに生きるか？ではなく、いかに死ぬか？ということである。死を耐えられるものにするために、個人の生命は無価値で無意味なものでなければならない。」「楽観主義の信条は（中略）ナチが賞賛する自己犠牲　すなわち人が意味あるように実存しうる唯一の行為である自己犠牲に突き進んだ。絶望が人生それ自体の本質になった」とします*[30]。

このように、反「社会」的であるキェルケゴールこそ19世紀の楽観主義が20

* 28 ibid., PP.431-4.
* 29 ibid., PP.434-7.
* 30 ibid., P.435.

世紀の破局をもたらすことを予言し、さらにこの難局への答えとして「神において不可能が可能になるとの信念」「神において時間と永遠が一つになり、生と死が意味深いものになるという信念」すなわち「信仰」を示したとドラッカーは考えます。こうしてキェルケゴール「を際立たせ、今日彼を緊急に必要なものとするのは、信仰者であるキリスト教徒に対し、時間と社会における生活の意味を強調したこと」にあり、unfashionableなキェルケゴールの思想の意義は「現代西洋の特殊な病、すなわち、人間実存の破綻、精神における生と肉体における生との同時性および互いの生にとって互いの有意味性とを否定した病について関心を持ったこと」にあるとしました*31。

したがって、市民社会の可能性にとらわれた社会思想家は、社会を捉えられぬばかりか現代社会の病理に何の答えも与えられず、むしろ、社会的でないunfashionableなキェルケゴールの思想にこそ、現代社会における非人間的な危機的状況にどう対決するべきか考えるヒントがある、と言い得るのです。

3．変動する「社会」とキェルケゴール

ところで、我々は「社会」という概念を皆で共有しているように考えがちですが、現実の「社会」は常に変動しています。ICT（Information & Communication Technology）による産業・社会構造の変革、すなわちIT革命により、IoT（Internet of Things）*32が急速に浸透し、場所を問わず常時インターネットに接続可能な社会が実現しつつあります。

現代がIoTの時代であることを誰しもが実感できるものこそ「スマートフォン」でしょう。スマートフォンによって実現した、四六時中通信網に絡みつかれた生活は、ネットによる個人の完全監視を現実のものとしました。そのため、21世紀になり、以前の社会では疑うことさえなかった「場所」の存在感が希薄になり、時代はIoTを超えて、IoH（Internet of Human）へと突き進もうとしています。

*31 ibid., PP.437-9.

*32「モノのインターネット」と呼ばれる。自動車、家電、ロボット、施設などあらゆるモノがインターネットにつながり、情報のやり取りをすることで、モノのデータ化やそれに基づく自動化等が進展し、新たな付加価値を生み出す。

キェルケゴールも19世紀あるいはヨーロッパに縛られており、彼の単独者概念のみならず、実存の諸段階説なども、単独者の立ち位置、状況、人間の身体を前提に述べられますが、「場所」概念の意義が失われつつある現代において、こうした議論そのものに意味を見いだすのは次第に困難になるでしょう。

一方、人間の身体性把握を弱めたIoTによる弊害の一つに「歩きスマホ」があると思われます。「歩きスマホ」をせずにはいられないスマートフォン依存症の人々、すなわちスマートフォンを信仰する人々は、周囲に目もくれず、多数の人間がいる状況下において考え得る自身の危険も考慮しません。悪質な場合、他人と衝突しても一瞥さえなく立ち去るものも多い。このように、彼らは、スマートフォン以外の第三者すなわち周りの人間のことなど全く考慮していません。

『死に至る病』には自己の定義が詳述されていますが、ここでは「絶望して自己自身であろうと欲する」形式は「自己が他者に依存していることの表現」とされています。他者というのは、当然「神」を念頭に置いていますが、この他者をスマートフォンに置き換えてみましょう。すると、

「歩きスマホ者は、スマートフォンによって措定されていて、スマートフォンに関係している。」「絶望してスマホ者自身であろうと欲するのは、全関係すなわち歩きスマホ者が他者＝スマートフォンに依存していることの表現である」と、20世紀とは異なる絶望的な状況すなわちスマホ社会における人間を考えるのに、この自己の定義は絶妙に「反復」可能です。

社会では、多数者のなすことが神の意志であるので、「もし、あえて人に従わないスマホ信仰者がいたら、愚かにも、おそれとおののきのうちに、自分の生活を自ら不安なもの、責任あるものとして、そのうえ、他の人にまで迷惑をかけるスマホ信仰者がいたとしたら、スマホ信仰者を、狂った人とみなすか、必要であれば、殴り殺すかして、我々の身を守ろうではないか」と、読み替えると、「単独者」キェルケゴールは、現代の「単独者」すなわち「歩きスマホ者」の擁護者となりえるのです。キェルケゴールの時代、いや20世紀末までは、『現代の批判』で展開された「少数対多数」という図式に基づく議論によって社会に警鐘を鳴らすことが出来ました。しかし、己の欲望にのみ忠実で

いることを可能とする以上、決して大衆迎合ではなくも、極めて大衆性の強い「スマートフォン」が社会に蔓延している21世紀において、『現代の批判』がどれほどの価値を保持し得るのでしょうか？

我々は、新たな時代に　どのようにキェルケゴールを読むべきか、様々な視点から検討する必要があるのではないでしょうか？

おわりに

今回、キェルケゴールとレギーネとの関係に立脚する限り「単独者」に社会性を見いだすのは不可能に近いとしたうえで、ドラッカーに従って「単独者」としての人間を考察することで、キェルケゴールの思想は、それ自体が反社会的であるが故に、社会派の思想によってもたらされた20世紀以降の社会それ自体の非人間性と対決することが可能か？　21世紀の社会にキェルケゴールの単独者概念がなじまないのか？　との論点を提示いたしました。

キェルケゴールやドラッカーによる深刻な「危機」から逃れたとは言いがたい現代においてさえ、単独者や例外者という概念は「孤独」と密接に結びつけられます。斎藤孝は『孤独のチカラ』（新潮文庫、2006年）という本で、人々に人間が成長するには単独者になることが必要と啓蒙するのですが、こうした議論が　世間一般に受け入れられているのは、社会的でないキェルケゴールとは関係なく「単独者」概念そのものが社会化された－キェルケゴールそしてドラッカーにとっても全く好ましくない－証なのかもしれません。現代の「苦悩」を自覚する「単独者」が「社会化」され、「社会」が取りこぼした「苦悩」はますます見えにくい「危機」に陥っている、このような議論はキェルケゴールの解釈史ではカビが生えたように思われるかもしれませんが、このような現代においてキェルケゴールの意義を問うには、ドラッカーの言うunfashionableなキェルケゴールの思想を、奇をてらわず真正面からぶつけることが求められるのかもしれません。

The relationship between Kierkegaard's concept of single individual and his sociality

Kazutaka YONEZAWA

For Kierkegaard' life, broken engagement to Regine Olsen is very important meaning. But probably people think that only because of Kierkegaard' personality, the relationship with Kierkegaard and Regine was very stupid. So we think that his sociality was closely related to his thought.

Yamada identified Kierkegaard as Maid-otaku, and Okada diagnosed Kierkegaard as a Schizoid personality disorder. So We want to think kierkegaard didn't have socialty.

Peter Ferdinand Drucker said Kierkegaard was unfashionable. But Kierkegaard' unfashionable thought was extreme important for present age. So Drucker' the unfashionable Kierkegaard was written as an affirmation of the existential, the spiritual, the individual dimension of the Creature.It was wiritten to assert that society is not enough-neo even for society.

Is the thought of Kierkegaard is comfortable n the modern society? Generally speaking, the answer is 'No'. On 21th century, smartphone has changed all of our society. QoL was dramatically improved from the 20th century before. However on the otherhand "Arrki-sumaho" Texting while walking has become social problem. But because Kierkegaard' thought is unsocial, so his thought can affirm Aruki-sumaho.

For Kierkegaard's thought is unfashionable, there are meny possibilities on his thought.